

業 種	鉄道・軌道
取組分野	社内情報伝達及びコミュニケーションの確保
テーマ	「膝詰め対話」を活用した、安全に関する社員意見を安全施策に反映させる取組
取組の狙い	経営幹部が現場に出向き、社員との対話の中で安全に関する意見を把握し、会議体等を通じて共有することで、会社の安全重点施策に反映し、自社の安全管理体制の見直し・改善を図る。
具体的内容	1. この取り組みは、平成 17 年 1～2 月に連続して発生した厳冬期の事故・事象を受け、平成 17 年 4 月から「会社幹部と社員の意見交換」として開始し、実施方法を見直しながら、現在は「膝詰め対話」として、社員の安全意識向上を目的として実施している。 2. 「膝詰め対話」では、直接の対話により現場社員の安全に関する意見を把握するだけでなく、把握した意見は、定期的に開催する「膝詰め対話報告会」にて本社関係者に共有し、日々の取組の見直し・改善や次期の安全重点施策策定等に向けた情報として活用している。 3. 経営幹部が把握した社員の声は社内報を通じて社内に水平展開するとともに、安全の取組の中期計画（安全計画 2026）に反映した社員の声は、安全計画 2026 の冊子にも記載している。

【社内報での水平展開】

【安全計画 2026 の冊子に記載した社員の声】

安全計画2023の振り返り

I. 安全意識を高め命を守るためにとるべき行動の定着

- 「安全第一・安定第二」「危ないと思ったらすぐに列車を止めます」「乗客の判断が最優先」の意識が確実に定着してきていることが、日々報告される乗客様からの声から確認できました。
- 一方で、安全意識などのアンケートからは「訪問の経路と事故後に、入社した社員の増加により、石巻線列車脱線火災事故、大沼駅構内貨物列車脱線事故の発生を懸念する声」が多数寄せられました。

II. 命を守るための仕組みづくりと取り組みの徹底

- 系統毎に教育の充実を図るとともに、教育後のアンケートなどをもとに内容の見直しを行ってきた結果、指導者側の社員の資質や社員の基礎知識の習得・技術力が向上しました。
- また、各現場業務の様々な改善とシステム化により「確意から確信までの適正化」が図られました。
- 列車事故（衝突・脱線・火災）や三大労災（轢車・感電・墮落）の再発防止に向けて取り組んできた結果、重大事故の発生や、轢車・感電労災は発生しませんでした。
- しかしながら、依然として墮落労災が発生し、さらには交通事故や熊本による大災害までい死亡労災も発生しました。

III. 安全管理体制の維持と安全確保を最優先とした事業運営の強化

- 毎朝実施している列車運行の安全確認などにより、日々、列車の運行状況や発生した事象を把握し、安全に関して必要な議論をする体制となりました。
- 旅客や安全の知識をもつ外部有識者から様々な助言をいただき、施策に反映しました。

IV. 「絶対に守るべき安全の基準を維持する」ための設備投資・修繕の実施

- 物価高騰や人材不足、加えて降雪などにより工事への影響がある中で、必要な設備投資や修繕等は速実に進めてきました。

安全計画2026の基本方針

当社は「安全」を経営の根幹と位置づけ、「JR北海道 安全の再生」を安全の基本方針とし、「安全計画2023」に基づいて、PDCAを回しながらこの5年を取り組み、安全意識の向上に努めてきました。

これらにより、安全性は確実に向上してきており、四半期ごとのトレンドの結果からそれぞれの取り組みは有効であることが確認されています。したがって、本計画の3年間の計画についても「安全計画2023」の考え方や取り組みを継続しつつ、これまでの取り組みの高度化、継続の強化にも柔軟に対応し、社員の意見なども反映して「あくなき安全の追求」を続けます。

安全計画2026の3つのポイント

<重大事故・労働災害防止のさらなる高度化>

- 列車事故（衝突・脱線・火災）や三大労災（轢車・感電・墮落）、死・労災（交通事故、熊本事故等）を決して発生させることのないよう、これまで発生した重大事故、重大労災、インシデントや危険事象等への対策を推進します。

<環境変化への柔軟な対応>

- 石巻線列車脱線火災事故から12年、大沼駅構内貨物列車脱線事故から10年が経過し、これらの事故を経験していない社員が増加していることから、風化や形骸化をさせない取り組みをさらに推進します。
- 採用・若手退職者の増加や急速な世代交代などの内部環境の変化に対して、業務の省力化・システム化の取り組みを実施します。
- 地球環境の気象変化により、自然災害の頻発・激甚化が脅威となっており、自然災害の対応力向上に向けた取り組みを推進します。

<安全に対する様々な意見の反映>

- 課題対話、企業風土アンケート、また、社員や安全アドバイザーからの意見を反映します。

社員からの安全に対する様々な意見を反映した取り組み（※課題対話のテーマ別）

- 石巻線列車脱線火災事故・大沼駅構内貨物列車脱線事故の発生防止について
 - ・「安全再生の日」のさらなる充実、「保線安全の日」の取り組み内容の全社への展開
 - ・教訓や知見を踏まえていただく「安全の振り返り」の実施、石巻線清風山信号場の見守の計画
- 安全意識の向上について
 - ・巨大地震や津波を想定した避難誘導訓練の実施
 - ・津波対応マニュアルの再教育
 - ・様々な系統の社員が参加する現場訓練の実施
- 安全の仕組みについて
 - ・ヒヤリ・ハットの再発防止や教育の実施、種別しやすい環境作りの検討
 - ・大規模災害発生に備えた様々な準備の実施
- 人材育成・技術継承について
 - ・「報告から始まる安全」を開始した種別での教育の実施
 - ・動画などを活用した視覚・聴覚で学ぶ教育の推進
- システム化・省力化について
 - ・保守関係い拡大による集中的な修繕工事等の実施
 - ・ドローンの活用、運転適合システムの検討など

取組の効果

膝詰め対話は、経営幹部の考えを直接現場に伝達し、社員の安全意識を向上する機会であるとともに、社員が経営幹部と直接対話ができる機会でもある。膝詰め対話での社員意見が、次期の安全重点施策や安全の取組の中期計画策定に活用される仕組みであることから、自分の意見を会社の施策に活かしてもらうべく直接伝えられる機会となり、社員の帰属意識の醸成や業務遂行のモチベーションアップ（働きがい）にもつながっている。

事業者名

北海道旅客鉄道株式会社 安全推進部
(連絡先：011-700-5768)